

会津地域における「ふくみらい」の高品質安定栽培法

福島県農業試験場 会津地域研究支場
平成13～15年度福島県農業試験場試験成績概要
分類コード 01-01-13242500

部門名 水稻—水稻—施肥法、収穫・乾燥・調製、生育診断予測
担当者 新田靖晃・齋藤弘文

I 新技術の解説

1 要旨

会津地域における「ふくみらい」を良質で安定生産するための収量水準および施肥法について検討した。

- (1) 会津地域の「ふくみらい」の収量は68～85kg/aと高水準にあるが、無追肥による生育凋落、粳数過多による乳白粒や未熟粒の発生により品質が低下する場合がある。良質で安定生産するためには、収量水準を70～75 kg/aに抑える必要がある(表1、図1)。
- (2) この収量水準の粳数は34,000～38,000粒/m²である。この粳数を得るための幼穂形成期の葉色(SPAD値)は、34～36が目安である(図2、3)。
- (3) また、この目標形質を得るための施肥法としては、粳数の年次変動の少ない「基肥窒素0.6kg/a+減数分裂期追肥窒素0.2kg/a」が適当である(図4)。

2 期待される効果

会津地域における「ふくみらい」の良質安定生産が図られる。

3 適用範囲

会津地域の「ふくみらい」の作付け地帯

4 普及上の留意点

- (1) 会津地域の平坦部を対象とする。
- (2) 粳数過多になると乳白粒、未熟粒の発生により品質が低下しやすいので、粳数水準を遵守する。

II 具体的データ等

表1 収量、m²粳数、品質および格付け理由(2002年、基肥窒素0.6kg/a区)

施肥法 (追肥窒素量(kg/a))	精玄米重 (kg/a) (×100粒)	m ² 粳数	玄米品質*1 (1-10)(格付け理由)	玄米品質(1-10)*2	
				1次核稈粒	2次核稈粒(格付け理由)
無追肥	71.0	341	5.5(乳白粒、青未熟粒)	3.0	10.0(乳白粒)
幼穂形成期追肥(0.2)	77.6	369	4.5(乳白粒、青未熟粒)	3.0	9.0(乳白粒)
減数分裂期追肥(0.2)	77.6	357	3.0	3.0	7.5(乳白粒)
幼形減分期追肥(0.4)*3	83.2	434	6.0(乳白粒、青未熟粒)	4.0	6.0(未熟乳白粒)
ひとめぼれ*4	71.9	340	3.0	3.0	6.5(乳白粒)

注：玄米品質は10段階評価で、このうち1～3が1等米相当。

*1は坪刈り調査、*2は4株サンプリング調査、*3幼穂形成期追肥(0.2)+減数分裂期追肥(0.2)

*4ひとめぼれの窒素施用量(kg/a)：基肥0.6+幼穂形成期追肥0.2

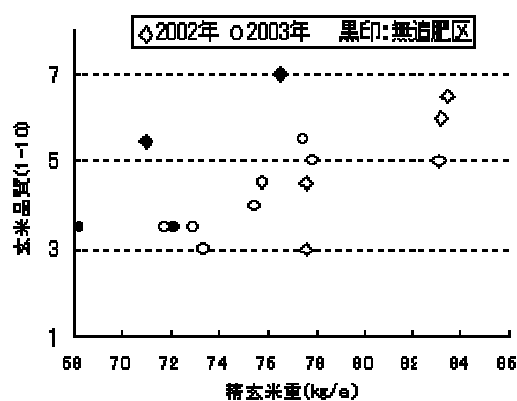


図 1 収量と品質との関係

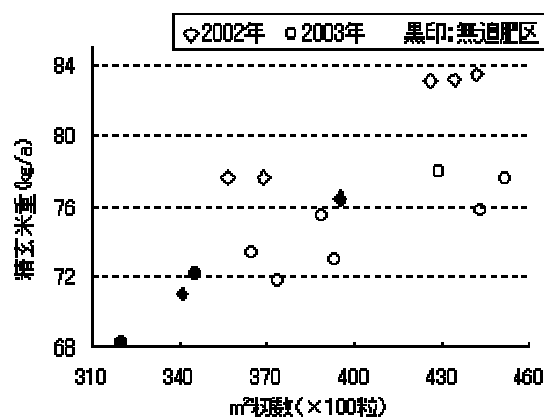


図 2 m²収数と収量との関係

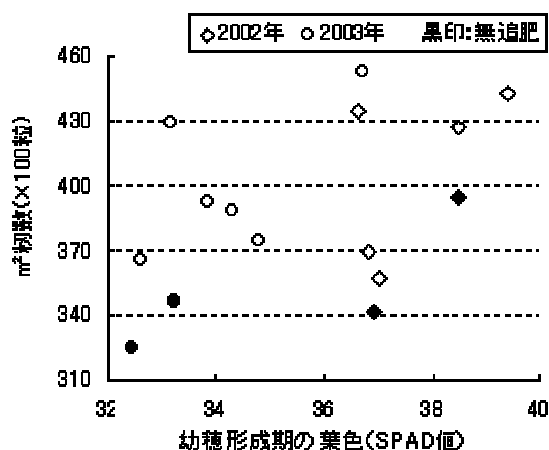


図 3 幼穂形成期の葉色とm²収数との関係

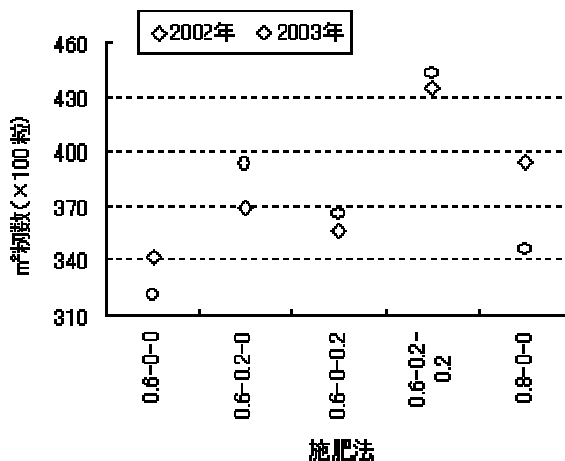


図 4 施肥法とm²収数との関係

注：施肥法 例 0.6-0.2-0 窒素施用量(kg/a)
(基肥0.6)-(幼穂形成期0.2)-(減数分裂期0)

Ⅲ その他

1 執筆者

新田靖晃、齋藤弘文、佐藤 誠

2 主な参考文献・資料

なし